

さまなり、一人の女たちで、板戸ひきあくれば、
 よひのほとよりさえ渡りしもうべ、雪しろらふり
 積れるなりけり。其女、此内にきささの宮はおは
 さぬかなとかしこしとも思はぬげに言ひ出てぬ。
 やかてこうろ峯のとまはに打いてたる、いみしく
 て、あはれかくまで今の世の女たちの心になひ
 てもてはやさるゝを、かのおもとかたましひ、若
 しきいたらんには、いかばかりなげくらん、いか
 はかりうらむらん、げにおもとは、おもなく文字
 たによめぬ女にはあらさりけるものをとかたはら
 いたくて

母と幼な子

つねを

すひつもいつか

灰がちに

さむざかこてる

幼な子の

「春着ぬふて」と 何にげなく

優しき言ばに 胸さわぎ

「父がいまさば しまさば」と

諭せる母を ながめては

「ちんはいづこに ぬ給ふ」と

問ふ子のかしら 掻い撫で、

「さればよ汝が 父うへは

かへらぬ旅に 三とせまへ

とのみにまたも うなだれて

あはれ涙に 母と幼な子

幼稚園案内 (第三卷第十一號の續)

東 基 吉

保育の方便の續き

保育の方便は、遊戯、唱歌、談話、手技の四項目